



加9
1064
6

普救類方卷之三下



林良適

纂輯

丹羽正伯

內傷

脾虛冷ふてふ食すりふ

乾姜と勝手薑透一
燭かハト粉小一陳茶と粥よ
そどう湯かく右の粉と粉り大豆の粉を丸ドウ七十粒白

湯として用ゆ 本草綱目

脾胃より食消せば食されどは少々に

粟米と搗細り少々く粉り丸ドウもふ入煮熟

酒少々入り入け少々水煎のものにて

傳信丸易方

又方苦菜と鮑魚とひとうふ煮て食して

同

脾虚冷ふて食されば吐んとする



早生酒（アラシノシロ）浸（イン）炒（アマテル）大ニ味粉（ミツボウ）蜜（ミツ）あく絞り胡椒粉（コショウボウ）のを
に丸十（マルト）七八十粒を投小湯（アオシナガク）或ハ塩湯（ソウヤクガク）も用ゆ 治法彙

食とれてある處（アリカニ）の寝起ハ穀勞病（コウロウイソク）と云ふも病より多く
常（ヨリモリ）か乳癰（ミルクガム）にて腹とところ食後（アフターフード）がむ甚（アシテ）きふ

大麦蘖（オオバコ）二合半蜀椒（スツケイ）十枚同（ドウ）炒乾姜（アマニンニク）三十枚粉（ボウボウ）とニ
みづ白湯（シロガク）と用ゆ身ふ三度用く（アシテ） 本草綱目

補益

食と消（シラフ）乳と下した

縮砂と炒蕎麥（アマメ）入酒にひく（ヒク） 煮て飲べ（イフベ）

本草綱目

穀と断（カタブリ）後（アフターフード）りふ

榆皮檜皮と粉（ヒバノヒ）毎日湯ゆくのびべ（アシテ）

同

又方天門冬（アマツモンザキ）三百二十枚熟比莢百六十枚粉（ボウボウ）蜜（ミツ）あく絞り胡椒粉（コショウボウ）のを

本草綱目

把の核（ハコ）乃大近丸（アラシノシロ）三粒（サンリツ）温（カナカラ）酒（シロ）と用ゆ身ふ三度
用く（アシテ）を踏（アシテ）と幼少一日食せどもよしとすり久
く用ゆ身（アシテ）於久（アシテ）年と与るとすり 同

又方大豆一斗二升又合（アマツ）二升蒸（ヒヤシ）と三遍（サンバン）して皮と去莢と
七升又合（アマツ）小豆（アマツ）と一升蒸（ヒヤシ）と三遍（サンバン）して皮と去莢と
同く（アシテ）細す（アシテ）身の大きまらう亂入（アソブ）蒸（ヒヤシ）と二升
て火（アシテ）よりもろく（アシテ）と又二升よって丸か（アシテ）晒（アシテ）、ハラヒと
と四升よって称小（アシテ）いの經（アシテ）と食とべ（アシテ）一切の食わかよ
ひ湯（アシテ）を飲へ（アシテ）口中に多く渴（アシテ）人麻子比莢湯（アマツノヒ）蜜（ミツ）湯（ミツヤク）
のひべ（アシテ）一夜食（アシテ）とせ日の候（アシテ）とおのざニ度（アシテ）ちに食（アシテ）て四
十九日乃候（アシテ）とおのざニ度（アシテ）ちふ食（アシテ）て三百日の候（アシテ）とおのざ
もすり身（アシテ）かの食事（アシテ）せんとぶり（アシテ）葵（アマリ）粉（ボウボウ）一合やども
に煎（アシテ）て用ゆ身（アシテ）前（アシテ）のまつりて法わと食（アシテ）と

平水韻考卷之三

同

一切の病やまいと除のぞく小

正月まつへ一日二月ふたつきへ二日十二月じゅうにつきへ十二日じゅうにち 每月拘把葉まわら比葉湯ひばりゆと
は活まわらしてして又またとくらべてくらべて 痘あざと生なむぐる事こと 同どう

諸
氣

一切 家の 事 心 殴 痛 あり と せん が い て 或 ひ い ふ

香附子四十枚沉香一两八分缩砂四分耳茶多了一十二分粉
にして一又六分半湯少く用少壯人晚にかづきりい生て
又方草豆蔻皮とさうり粉少くして又ち木瓜と生姜とあそを
煎トくわけ之を飲ヘの

又方紫蘿よと搗細一食わよキドヘ食之
脾氣かきり薄く胸のあくろよかきれふ

金の
わく

卷之二

脾氣かきうり薄く胸のあくろよかくされふ

枳壳二十枚
麸皮一小撮
粉一小撮
水二升
煎取一升
分作三服
日服一服

と鹽小下虛一胸痛食之
沉香二分又少附子炮干之又皮而切去之二味合
て一末よ生薑一斤水天圓一匙半入一匙上煎ドつて用ゆ
上氣一肢拘引多時起坐亦りがくに小
あひの二三日後之て氣急せば乃良藥也丸出一とさり粉

積聚

積聚
えりゆき
腰中積聚の或へれり或へ血或へ飲食の瘀るより腰中に多くあり
かくて散せど或へ脇つゝ或へ痛すども久きにゆぐの症
めり積ふ此症とて瘧とりあり

黒葉蔓一升と抄酒よかつても積聚
のうべと製べてひそかに聚つて積聚う
つらうらび逐く製べて積聚うて食べ
本草綱目

又方却夷十本に鑿十五本有
魏和_{アシハ}之_ノ後_{アフタ}此_{コト}之_ノ後_{アフタ}此_{コト}
うへて_{アヘテ}も_モ一_{イチ}大波_{オホハ}通_{スル}じ_{シテ}いゆべ
同_{ドウ}

て余わざとものなり
高陸根とうり擗てけとあがりあり糞ゼンド布ふを
痛ハラス

を繕へりひとべそりとく昼夜大山とやく繕てよ
又方菊藿根二十本酒又合二斗漬と二日を湯と温ても勿
飲へり多あひ方を用ひ方菊藿根と酒よひの内鍋
入熱ち灰の内よられわくまつる時菊藿と丸が一玉酒瓶
のとてす

秋の月署氣あきのつきしょき、氣きみ素すド、秋久あきひさく、氣きはわはり脇宿わきしゆ

卷之三

月
で和葉お
草
本草綱目
亭
薑子二合熟酒一升水浸と七日かくとを酒と飲べ
生魚の肉を多く食
或は矣鰐かど今
胸みせらうりて消
化び腋中に續聚と
生えり

馬糞茶と杵けと去油り二三分のとして。同

又生姜汁とのとして。時後備急方

常に肉桂と好みをすてて食へ。もろて多く食せんと。やがて肉癰あり。馬屁といつて経ちを後ふ飲べ。肉とせきをして食るやうり。因てせきをすてて多く病治せどして元もろとのやうり。千金簡易方

大人小兒に。腰のまわりに。あるいは。腰痛。腰痺。腰痛。腰痺。杏附子南星等を粉す。生姜してやましき。糊して。紉り

大豆の末。丸。四十粒。生姜湯。よく用ゆ。本草綱目

又方馬齒莧酒と醋と。いと煮て一椀を後ふのとて。衛生易簡方

股中に積聚あり。飲食す。また瘦つ。と。下

虎杖根三合。酒。と。酒。と。のとて。時後備急方

諸果と食をり。ふくらむ。積と。の。腰。も。り。無。せ。ま。と。下

麝香。又肉桂。す。粉。と。酒。糊。と。糊。豆。の。入。み。小。丸。大人

八十粒。小兒。よ。ハ。七。粒。白。湯。と。く。用。ゆ。本草綱目

又方肉桂と粉。一。饭糊。ゆ。く。糊。豆。の。入。み。丸。一。十。粒。と。白。湯。と。用。ゆ。傳信充易方

常に生茶と。ぬ。そ。と。食。一。食。を。多く。生茶。と。食。せ。ざ。と。腰。筋。を。吐。と。茶。癰。と。下。

糲。屎。二。合。の。茶。一。合。む。し。く。粉。集。一。搗。粉。み。水。と。飲。ま。と。下。茶。の。じ。れ。わ。と。吐。か。と。一。又。ハ。癰。と。吐。か。て。瘻。い。ゆ。そ。り。十。金。簡。易。方。

何。京。も。と。食。わ。の。の。よ。髮。も。あ。り。を。擇。り。て。食。一。次。と。胸。の。下。小。虫。あ。り。て。よ。ア。又。ハ。ク。リ。と。と。油。を。飲。と。を。ぬ。飲。食。と。ぬ。よ。ぎ。り。人。髮。癰。と。下。

油。と。裏。ド。病。人の。枕。り。ふ。と。と。油。の。言。と。喚。せ。く。休。一。ひ。あ。う。と。病。人。え。ま。り。ふ。油。を。の。ん。と。と。就。と。り。と。寝。て。腰。

と後中の發癢口もりあべて切を足ばるや石炭をもの
うてつけあらん癩を拂かべー 同

婦人血瘀り後の中に塊を生じてひむ
繁縝糸と酒よかきを炒めして拂けと云ひとく温め

て用ゆ 本草綱目

又方守定一升を白麵とひよりふ拂てから拂のやうに
拂魏一合をべー血塊とトして金べー 同

又方瓦礫殼とやゑて一醤みくねり丸一湯引て用ゆ 同

又方紅花十两を三合として煎ト一合を水煎トつらぬきして用ゆ 同

又方牛膝莖糸とりふ酒とて煎トのそト 同

又方藕節と荷葉ともち粉少して一升漬酒の内より飲く

ト一升を酒と煎て用つもト 同

衛生易簡方

奇脉の脉のトより痛ちる胸へそのがり脈の走るところを痛め

松実と夷子粉一升を湯みて用ゆ 本草綱目

又方薤の根と杵けどよりのそト 同

又ハ鼈甲硝一升一升りて三升を三合燒灰少すとて拂て用ゆ 同

一升二十枚粉一升桃仁皮と考りとて三十枚湯とて浸

研くけ七合を去りて薑とて又合よ煮つめ右の粉と入

再び煎ト此不て硝二合を入煎ト鍋のどくとて一升でゐ

にうをすを後よびべー 同

鼈甲痕へ後中ふ鼈甲の形ノゾムナリ塊ありて痛つて脉とかき出

未采少少よひて研てけと去り丸をけと白紺と一升酒飲て用ゆ 同

又方薤蓋根白皮と杵けと塊り丸をかき出のそト 同

婦人脉の下ふ塊ありて根の大さ根一升を水煎せしめよ

内よあらゆりて後或は病病のどくに中れ瘦つてものふ

幹凍す令生の地黄八百まで拂觸一けと去りてうちまけ

まで乾漆と煮てからする時丸を出しこのとき小兒ド
ス六粒を後より湯よく用ひ日ふ二度用てト時後備急方

小兒後より候候あらム

大魚り牡筋とより肉とより水にて煮ておけゆく粥とて

食と一

本草綱目

飲食傷

一切食傷

何をとも食わと食をとて脇太ふらり或へ痛をどぞれか

人麦麩と繫もーーと一又白湯やく用ゆ本草綱目

又方食をゆて煮をけどもやく飲食わと咲て食らす同

又方貝みつゝ味食ひて飲わと咲て食べ同

又方山楂肉をゆて煮て食し并みちけとのと同

奥もの肉と喰すざわらうと用くよ

同

又方あ二合のうちへ酒一合いを薬ト飲ばはゆて食べ同

飲食乃後心胸緩むらり何の毒かあらりとすと雖ぞらム

備急良方

本草とゆて法矣トのと同

又方若參とあゆく法矣ト飲く食はせが同

時後備急方

又方蘋角と研水とて法矣トのと同

稟聚草方

又方山楂と薑薑ト核と去核トからして研り研薑の

同

大ふれを白湯もとい経と用てト稟聚草方

病後何をとも食わよからず病家ものとくとく

病人の飲ふる食わの物と燒粉ふとニ又津とを飲

子しをより口ふ二度ヤ用てト十全簡易方

九魚内のれ幕ねよ入蓋ヤこめ到夜と越て久ハ毒ありと肉

と食トシ一毒アリありナリキクアフ

人ヒト糞ヒツとヤシ粉ヒバとして一二イニ玉タマ酒サケ入スルかシテ用スル 肘後シラヘ備スル急スル方スル

又アリ方スル糞ヒツを杵ミキしてミキりミキてミキかシテ飲スル スル同ドウ

臭オシ多アリ糞ヒツをヒツとヒツのヒツづヅ例スル死スルのノのノ肉スル毒アリキク

もモ毒アリりアリにニ

故ソシとソシ飲スル中ノのノ酒サケとソシよりソシてソシ二ニ本タマ糞ヒツ湯ヒツヨウよカシマをカシマ飲スル急スル合スル也ハ

又アリ方スル糞ヒツのヒツ粉ヒバ一イ玉タマ水スルとヤシ用スル スル同ドウ

諸シラのシラ毒アリ糞ヒツをヒツ杵ミキしてミキ同シテ鼻ヒレ臭アリ血アリとヤシかシテをカシマをカシマすスル

新シキ人ヒト糞ヒツのヒツけヒツとヤシほホりホりホ飲スル或ハ乾スル糞ヒツとヤシとヤシ

灰カス少シかシ水スルをヤシ用スル スル同ドウ

又アリ方スル葱ヒハツ二ニ合タマ水スルあハシマとヤシ烹スルけヒツとヤシ之シテ飲スル スル同ドウ

肉アリ毒アリ血アリとヤシ小タマ用スル スル衛生易簡方エイジンイカク

又アリ方スル加カシマのヒツ水スルをヤシ煮スルとヤシ飲スル スル肉アリ毒アリ血アリとヤシ

鰐カマツ魚ウニ毒アリ

諸シラのシラ魚ウニノノ毒アリりアリたタるタるタ

人ヒト豆マメのマメ豆マメけマメとヤシのノとヤシ スル本タマ草シダ綱ハシマ目ムカシ

又アリ方スル雜ハラ藻マクラとヤシりアリてアリ葉ハラドハラのノとヤシ スル日ヒ

又アリ方スル冬ヒナ朮ヒナのヒナけヒナとヤシりアリのノとヤシ スル同ドウ

又アリ方スル活カキをヤシ方スルにシテそシテりアリ湯ヒツヨウとヤシそシテくシテニシテ及スル スル同ドウ

又アリ方スル貝カキ子コとヤシ燒ヤク粉ヒバしてヤク火ヒ多アリ少シ少シ多アリのノびビ スル同ドウ

又アリ方スル芦アシ根ルとヤシきアシるアシとヤシりアシのノびビ スル備スル急スル良スル方スル

河カワ豚ハグロのハグロ毒アリりアリとヤシ スル同ドウ

麻マツ油マツ油とヤシ多アリ少シ少シ多アリ少シ少シ多アリ スル本タマ草シダ綱ハシマ目ムカシ

又アリ方スル搗カク花カクからカク炒ヤク乾スル臍ヒツ脂ヒツとヤシ首ヒヂ粉ヒバ少シ少シ多アリ少シ少シ多アリ スル本タマ草シダ綱ハシマ目ムカシ

獸毒 附蟲毒

狗の肉と食 毒ふあらり 腹脛熱めく 妻治すどひふ

杏仁一合はと夫とと少々を薬 飲へ人徑り生を用ひ

又方芦根と少々葉ドのびー 同

牛肉を食て毒ふあらりとまふ

其多は少々く法薬もりのみて 同

又方根子とやき灰して三支ゆいき化せのみて 同

又方豬脂と湯の中にいきかこさせのみて 同

牛或は馬の肉と食 毒ふあらりとまふ

扁豆とやき粉すく水とく用ゆ 本草細目

又方耳屎を少々く法薬ド飲べー 或は酒もと薬ド飲む

ト吐はしく金べー湯つても水と飲むがん少紙のちと

死もとのすり 同

又方乳けとのみて 同

又方芦根と少々葉ドのみて 同

又方赤芍の根乃ムをさりと水とくとひー 同

又方豆蔻と豆一粒径少々と吹てー 或は白湯と用ひよ

保てあ蛭と呑るに

藍歛と少々入りさせ飲べ大便もりりて食らすり 同

又方田中の泥と豆一粒吹てー 田中の水とそのもとべ 同

野菜中毒 附蘿丸菌

諸の野菜の毒ふあらりとまふ

既の癌と至の大きさやどまふ食ふの おひしこゆ 或は白湯も用ひよ

又方赤宍と豆一粒吹きとまふの おひしこゆ 一盃絶のみて 同

又方取原とやく粉とて一又水とて用ゆ 同

又方耳屎貝母硝板等を粉りあみと用ゆ 傳信丸易方

口と口とじて山椒と食ふと心毒よりはまとはしむらさび草死せん

冬葵子をいよ葉ドのじべ 本草綱目

又方生と食へて 同

又方古み冗とり少岱いといた生せ湯にてのにて 同

の毒よりうるふも菌の毒ふあらそくふも 同

又方肉桂とあみくは葉ドのにて 同

又方桑根といよ葉ドのにて 同

又方蒜と搗しけとのにて 千金簡易方

高首と食 毒にあらざる

生姜のけとろくて 本草綱目

春秋ハ芽の内小柏子を生つけ茎しわりとすも芽と食へ

あきと股くり満いとあびりたりのそり

便穢をたせ合食へて 同

薑と食へて毒ふいぢる

生姜を研漿酒の口へきがきせのそり

備急良方

桃と食へて毒にあらざる

桃の皮ふつきをくじらまきのとらぬもと粉と水

本草綱目

西丸或へ細丸と食へ股くりざる

西丸の皮と水を束ねのとて 同

又方活湯とのとて 祛丸とあらざる用ゆ 備急良方

一切の糞と多く食へ 股くりざる

麝香とえをりと粉と湯とを呑むと 同

又方鴉屎と粥と煮て食へ 同

大麻子二合は萸蕪二十枚ト一毫多く持り丸ド湯ミ
飲ヘ或は萸蕪と同量トモトモ 肘後備急方

酒毒アラクを口中ぬけスルム

田螺タラバと煮スルけとのそトモトモ

本草綱目

酒毒アラクをあらり小便通スルカムシム

蛇心ヘビノコと水ミを束タマドのそトモトモ

治法要

酒アラクと後アフタ瘧マラリヤ病アラクとそりふるま
梅骨メイガと少ハナシ萸ヤンド用スル或ハシ粉ヒバニト白湯シロヌカを飲スルトモトモ
酒アラクとそレ解ハバキとレ解ハバキとレ脾胃ヒバウと扶スルセスルトモトモ
柏子仁カジラニ麻子仁マラニ等ハシを搗スル一合れ白湯シロヌカ入スルのそレ酒アラクと飲スルトモトモ
又方アラカニ冬ハサウエ葛苑カガツヅ木绵花ヒダラヒナ等ハシを粉ヒバニすレて一毫ミ酒アラクよカミせスルを
用スルて後アフタ酒アラクとレ解ハバキトモトモ碎金方
酒アラクと味ハラフ平ハラハラ生ハラハラ飼スル害アラクをスルりんトモム

肘後備急方

酒アラクと後アフタ瘧マラリヤ病アラクとそりふるま

茱耳スルカツ又七八粒燒灰スルカツト酒アラク入スル飲スルハトアラクとレ酒アラク入スルハトアラクトモトモ
又方アラカニ螭蟠シラフタトレ酒アラク入スルハトアラクトレ同アラカニ
又方アラカニ白ハラハラ犬ハラハラの乳ハラハラけと酒アラク入スルハトアラクトレ同アラカニ

諸ハラハラの葉ハラハラ毒アラク小ハラハラよりハラハラ苦ハラハラシム

白粉ハラハラトレ酒アラク入スルセスルモノハラハラ 本草綱目

又方アラカニ生姜ハラハラ姜ハラハラけと酒アラク入スルハトアラクトレ同アラカニ

又方アラカニ葛根ハラハラとレ酒アラク入スルハトアラクトレ同アラカニ

又方アラカニ赤ハラハラ向ハラハラの礬ハラハラ石ハラハラと粉ハラハラ入スルハトアラクトレ同アラカニ

又方アラカニ藍ハラハラ靛ハラハラ衣ハラハラとレ酒アラク入スルハトアラクトレ同アラカニ

又方アラカニ草ハラハラ黑ハラハラ豆ハラハラ洗ハラハラ行ハラハラ兼ハラハラ等ハシと酒アラク入スルハトアラクトレ同アラカニ

又方アラカニ服ハラハラ毛ハラハラとレ酒アラク入スルハトアラクトレ心ハラハラ苦ハラハラシム

藥毒

葛根と搾けとを沸くのとてトレ 鄭韓の葛根ホウルと乾ハシキと
粉ヒと小火ヒと用ゆ 脈後備急方

又方雞子黄ホウズイと生葛ホウルと七つ絞セツのとてトレ 同

又方耳スミと生葛ホウルとあげといきかまカマせのとてトレ 同

又方生山楂と多くの木皮にて 同

又方藍根砂糖水入をりまけとの木皮にて

傳信尤易方

巴豆の毒よあらり後りにて止む

黄連乾姜等を粉にて一玉づ山かく用ゆ 本草綱目

又方芭蕉の根と杵けとあがりとしの木皮にて 備急良方

又方桑根と捺けとあがりの木皮にて 同

又方小豆蔻と捺けとあがりの木皮にて 同

又方葛蒲と捺けとあがりの木皮にて 得効方

輕粉との木皮にて四中破きとす

又方葛蒲と捺けとあがりの木皮にて 得効方

輕粉の毒よあらり熱者筋骨いじふ

山椒と湯と泡曬、水と泡と三皮にて 水と

行九ド天花粉と桑葉と水と後よ水經つ温湯にて用ゆ

本草綱目
舉證知要

地薑の毒よあらりとてふれてもふ

病人の口と圓き蘿子三つあづび 壓いとべー 本草綱目

も地薑とはあてて金へー 本草綱目

又方生山楂と病人の口ふうそ壓きの阮とまろ

と口の中へ壓いと咽よりれハ更えべー 附後備急方

又方耳草と少葉ド多く飲じべー 同

地薑の毒よあらりとす

沢薑の葉と粉と水とのじべー 得効方

地薑の葉と粉と水とのじべー 附後備急方

又方葱と粉と水とのじべー 同

又方溫湯とおろくの木皮にて 千金簡易方

鄭鴟の毒トトコふあくらりとるふ

施セラカ子コあと入アリ挿ツルけケとトよりのモとトート 附後備急方

芫花の毒ヒルメふあくらりとるふ

防風ボウフウとゆよ東タオトトのモとトート 同

又方木スガシ木キとあく東タオ飲ヒべテ或ハ肉桂ニンジンとゆよ東タオトトのモとトート 同

木反の毒ムカシふあくらりとるふ

生姜ショウガけケと飲ヒくト或ハ乾姜シナモンとゆよ東タオトトのモとトート 同

杏仁の毒エドヒンふあくらりとるふ

藍ルのケとトのモとトート 同

桔梗キキョウの毒トコロふあくらりとるふ

白朮粥ホウツクヌイと食ヒくト 十全簡易方

耳邊ミツバチの毒トコロふあくらりとるふ

大豆マメの煮ヨクけケとトのモとトート 同

蠍蛇ヘビのトコロとトコロ葉ハとトコロ毒トコロふあくらりとるふ

桑根ソノベとトコロ挿ツルけケとトコロ飲ヒくト或ハ桑根ソノベとトコロ東タオトト用ヨウもモ 附後備急方

候ホウて煤成メイシ炭タクとトコロのモとトコロ毒トコロふあくらり同モひ例ナシるルふ

鳥トリすスとトコロへトコロだトコロいトコロくトコロトトコロ毒トコロふあくらりとトコロふトコロ死スルるルふ 本草綱目

候ホウて令狐ヨウグとトコロ春ハ毒トコロふあくらりとトコロふトコロ死スルるルふ

雁屎カモヒとトコロ入アリかカきシをシをシぐクにシしてシ二ニ令ヨウ飲ヒくト 附後備急方

又方少アガ酒シ二十ニ合ハ飲ヒべテ令ヨウとトコロ之シ不ハ便タクりリりリ 附後備急方

又方鷄トリの血クサとトコロのモとトコロ毒トコロふあくらりとトコロ或ハ鷄トリよシかつフすス 附後備急方

泄ヨク浮ヒラ

泄ヨク浮ヒラに

白朮ホウツクとトコロ豆ハ二ニ合ハをシ後アフタ白湯シロヤクと用ヨウ 本草綱目

又方烏柏アガバとトコロ豆ハ二ニ合ハ用ヨウトトコロ調アフタ湯ヤクのモ用ヨウ 附後備急方

增補卷之二

十七

又方又妹子二十支共薑黃粉同
研細入一粉ノ一テニ及
陳雲本末と水ノ半量とより太の末といき、
丸モ半粒を後
小豆の或ハ寝て少少のとしてト
衛生易簡方

衛生易簡方

大波おほなみあめ乃のどくりまふ
厚朴乾姜等カクのきのきんじょうとうを粉こに審かうめて酒さけたり大至だいしの大主だいしゆふ丸まるどく

厚朴乾姜等を猪の塞とて絞り大豆の丸子ト
七八十粒板のうり湯ノト用ゆ 本草綱目

又方丈連厚朴等分生着けよ、かきすを妙クナリニ及生着一片

いきわニ魚ノモ糞ド一盃半水煎ドノ可也。衛生湯簡方

支方車前とて妙道ノ移にて又坂の通り湯よりモテを用ひ
同

又方又傍子と號す
翻ひく抄人室の本草小丸ド二十粒

蓮の葉湯と用ひ署氣の如く水に写すふ用て
本草綱目

ゆくよしとて通じ候ひむか

白聖と斐原みい生みづゆみか
十支乾姜胞子て十分松

卷之三

葉二十枚弱
細めく絹り葉裏の大きさ九寸て二千枚板の

うりはくのモトハ
とけり
がくをやで
こうぶ
けいき

益軍本來一づめ用ゆ 同

小猿りきふ
さるのうゑ
二

又方丈蒜と括り心并く 腕の中水點々 同

又古事記の草庵の集より謹候
此の御子は、
小月の御子アキツノミコト也。同

文方流黄潤石粉にて二度つ吸のうり湯を用ゆ辛に

傳信丸易方

文方計數三十多幕莫多矣其後又十數年六三以泰

筋糊（そくご）して絞り胡椒（ごうひ）のを丸（まる）ド四十粒（りつ）て食前（ぜきぜん）茶飲（さあん）
かく用（もち）ゆと小火候（こかう）りてこゝへがくに小用（こもち）て（と） 得効方

泄泻（けいけい）つゝくして渴（うなぎ）あるふ

秦艽（せんくう）ニ枝草本葉（や）煎て入（いれ）ゆして煎ト用（もち）

本草細目

急（いそ）後（こう）りてやまと小火遍（まん）せよろふ

車前草（しゃまくそう）炒粉（炒めん）して二ふづ茶飲（さあん）みく用（もち）或（もしく）へ精氣（せいき）と搗け

救急易方

暑湿（しょしつ）みちりゆと人火候（ひとかう）或（もしく）へ食傷（じきじょう）して胸（むね）脇（わき）りふ

作麴（さくきく）炒茶本草（ぼんそう）汗（あせ）浸（ひまつぶ）とと三百丸（さんびゃくわん）か一粒（いっりつ）燒（やく）ハナニ味

糊（ご）して絞り大至（だいし）の丸（まる）六十粒（りつ）て喉（のど）の

湯（ゆ）すく用（もち） 傳信易方

腸胃（ちやうび）小溼（こうしつ）とうけ後（こう）は大火候（だいかう）自行（じゆう）いづま

白本二十支（やしろほん いそじ）附子炮（ふくし ばう）して十支（じそ）茯苓（ぼくりょう）十支（じそ）合（あわせ）て二支水天

用（もち）小一盃（さう）を姜七片（しょうしちべん）入（いれ）てちあく煎（せん）ておひどり飲（の）て（と） 得効方
又方（またほう）川芎（せんくう）炒麵（炒めん）白本附子等（とう）等（とう）糊（ご）かく絞り胡椒（ごうひ）のを丸（まる）
丸（まる）八十粒（りつ）で飯のうり湯（とう）して用（もち） 同附子等（とうとう）制（せい）候（まつ）の下（した）にあり

久（く）く泄泻（けいけい）やまざりふ

又信子（しんし）と筋糊（そくご）して二支饭のうり湯（とう）して用（もち） 本草細目

又方（またほう）林蔵（りんぞう）炒粉（炒めん）して六七支（じし）白糖（はくとう）かきこむを食（く）て（と） 同
又方（またほう）石硝（せきなう）火小火（ひこひ）やまく洞（とう）そくく丸（まる）か一火毒（ひどく）と（と）と（と）
一火毒（ひどく）と研磨（げんり）か別（べつ）火硝（ひなう）とある小葉（せうよう）ト（と）おけ（おけ）て右の
筋糊（そくご）と

又方（またほう）内豆蔻（うちこく）十支（じそ）樊灰（はいがい）入（いれ）てやまと糊（ご）と
丸（まる）ト（と）四十粒（りつ）飯のうり湯（とう）と用（もち）或（もしく）は連肉（れんにく）の黄湯（こうとう）と用（もち）よ（よ） 同附子等（とうとう）
又方（またほう）内豆蔻（うちこく）樊灰（はいがい）よれうづとやまと糊（ご）と瞿粟殼（くろくがら）炙（あぶ）りて等（とう）糊（ご）
醋糊（さくご）と丸（まる）四十粒（りつ）飯のうり湯（とう）と用（もち）同

晨起に腰りてやまざく

生姜二十枚大連十本さざひよりふかきをとく押つけ一夜を
て慢火かく炒生姜の茶をふすりとす附薑とすり姜連をう
ると粉してニメテ細茶のうへとくやく用ゆ白術よ姜飲

或ハ酒と用ゆ 得効方

夜じふ太絞りてひくひて法の茶煎じて水

生ち十枚半炒禁湯よ淀く三十粒大半三十粒とおもむき水

八合いと四合よ煎ドつて用ゆ

量聚草方

又方又味子十枚吳茱萸二枚八分がゆく炒香く一粉

ニタク陳皮飲して呑りとべー 得効方

晝夜數とあらば済る

吳茱萸連明出粟殼等を粉ト 醋糊とて炒り胡椒の人手

丸ド三十粒ドを後小承飲して呑りとべー

同

又方又味子十枚粉ト

粉細

て炒り人豆の人を

に丸ド株砂と夜ト三十粒づて白湯とて用ゆ或ハ温湯とて

七用ゆ及敷去けく腰痛止まふ用ゆ

本草綱目

脾胃虚の泄泻小

白术又味子十枚粉ト 焙のうち湯とて炒り人豆の人を

小丸ドて百粒づて饭のうち湯とて用ゆ累ニ及用てト一トハ

肉豆蔻とくり丸ド用ゆ 同

脾胃えもり弱く或ハ泻ト或ハ痢病のとく或ハ欬止後令多

くすり感ハ食わこりまじててりふ

小茴香二十枚生姜軍又細小さざひ入湿紙とてかひ一夜

ひきを取立日やこね渴よへ慢火とて炒萸を小すりとす附粉

ト。ひそも粉り胡椒の大きめトニ辛程づ暴湯とて用ゆ

量聚草方

又方飯匙百六十枚蓮肉山茱萸八十枚と炒焉くとく味あす。

小兒熱りて大便下りふ

黃藥はそりづき焙り粉ふり飯のく湯にておも粟乃

又小丸二十粒ほく飯のく湯を用ひ 同

又方車前子と炒粉小一茶匙を用ひ茶の多めに小兒の

丈小みよろべー 救急易方

小兒久々に泄深止ど食料こうねどて下り并に不食とふ

白朮炒て卦々五分半夏ニニ五分丁香五分粉ふり麪

粉と生姜汁とこじら糊しておも香末れえと小丸十

粒アトシ湯にて用ひ丸粉の小兒の丈小みよろべー

本草綱目

老人虛りて泄深止とふ

附子赤石脂各半分みー醋糊しておも太豆の大きさ丸十

百粒アトシ湯にて用ひ 同

又方高良姜青木香各半分ふー寒肉を水にて煮熟

右ノ粉をとまセ胡椒の大きさ小丸乾姜の煎湯と十五粒
入り二十粒すを用ひて泄深止心氣消えと飲食令とくはぐる
ふ用てよー 傳信を易方

病

癆病

鵝と鶏の骨と料理小豆と生薑を灰の同様に煮て食ふべし 本草綱目

又方向炳と炒黄豆ニ豆で空腹の向湯にて用ひ 同

又方阿膠と炒て際の骨にまじめて生薑膏のよしに黃連の粉といき

まセ稀り胡椒の大きさ二十粒未飲して呑下せよー 衆妙方

又方初生小王丸蜜と酒にてひかとも食ふべし 本草綱目

又方十二指下生僵へす半兩を炙と病人は牛の骨をつぶせば 得効方

又方腰下一百筋と百壯と百壯の上に筋の中ハ二十壯灸とせし 同

癆病勢もけりきふ

又赤と搗末から足心奉に膝の上に貼てト本草綱目

又方黃連をすり姜二五分を炙同小盃入一盃紅茶下候頻ひのまほ本草綱目

又方小き鯉魚一枚焼度す一飯のところ湯と用ひ衛生易簡方

癆病咽喉づれ

麥門冬二分烏梅二分肉桂二分水天月一盃入七分水本草綱目

煎トつめ用ひ或は烏梅を二分水煎し肉桂をもど本草綱目

癆病腹痛

黄連一合酒五合にて薑二分煎夜五六十度程まで通す後重ならふ本草綱目

黄連

一合酒五合にて薑二分煎夜百度候本草綱目

薑葉

二分薑葉をかぶせて二分で烏梅の煎湯に入らせて飲てト衛生易簡方

癆病

水り含む物もすくすく下らふ本草綱目

癆病水り含む物もすくすく下らふ

桔梗子を燒粉めて一又分を水飲べ本草綱目

又方牛骨燒灰少く神曲炒て多分粉少く一二又分で飯の

とく湯と用同

小兒の癆病

粥乃て乾柿の皮と在夢の葉を含むてヒ乳母も含む本草綱目

又方雞腸草と搗汁をもぎりきる蜜を入れて用ひ本草綱目

又方冬瓜を搗汁をもぎり飲てト咽がりきつてならず本草綱目

蜜がぞくくかきせ用ひ同

又方木瓜を搗汁をもぎりのとく同

又方米瓜炒粉少く向湯とて用ひ金匱要略

小兒癆病勢もげりきふ

小兒癆病勢もげりきふ本草綱目

又方赤小豆と粉少く水煎して用ひ本草綱目

熱瘧

熱瘧ハ身熱一咽からだ小便濁り腰痛も病勢つむじよ
香蒲の根とさざなみ五分粟米一升水を煎すて煎すて日

小二三服で用てよ本草綱目

又方好茶と多く搗細小一水ひそ濃煎すて二三碗のそば同
又方生地黃一升七分地榆一升甘草四厘水天月ニ盃入一
盃より煎すて空腹に用ひ日ひ二三服用く同

又方車前草葉五分搗汁を煎すて一盃の中れ蜜半盞入煎す同

溫湯を二度飲すて或は車前子を炒香すて粉をて飯の

とつ湯を用ひ 救急易方

又方黃芩黃連黃蘖各二升五分熟艾を鶴子すかん火と於
四味今くニ升水一碗入七分小煎すて少しうものし得効方

又方地榆芍藥各一升甘草當歸各二升合て一升水一碗すて

煎すて用ひ小兒の熱瘧用てよ同

冷瘧

冷瘧ハ身熱へ腰冷ひ不食などをす

厚朴附子乾姜陳皮各二升水一升搗して細う粟米のを

小丸ト三十粒で飯のくらべて飲べ一日分ニ度づて用てよ一

得効方附子の半分
製はるすかん

又方蒜を搗すて水を煎すてあとは水を加えてよ小兒ア冷

赤瘧

赤瘧ハ赤さとのふ下とちう

陳皮梅子糸引茶と蜜を水すて煎すて煎すて腹痛

止すて用てよ本草綱目

又方吳茱萸豆蔻粉水一湯を用ひ勝つてよ小兒ア冷

赤瘧

痛つては用てト同

又方大麻子を水ミツル入研けを絞り其汁を縫豆ヨウヂを
煮て下しシテシテト同

又方紅レッド雞冠花キガクハをか酒カクヒと煎シテド用ヨウの同

又方黃連イエローリンの粉フウム十两ジウリと鶏子トリノコ白シロ砂ササニシキ鉢ハチに紫石シモロクを
入り經ヨリシテ酢ソ七合半セキハーフの内ナヘ入れ火ヒカリをゆくして煎シテドシテ此
膏カスアラ粉ハラフウムを鶏子トリノコ白シロして丸マルド用ヨウト同

又方赤小豆アカマメの粉フウムを端午タガメとて飯ヒヨウの水ミツル湯ヨウ入スルのミスルト同或ハ黃
連イエローリンアラ粉ハラフウムを鶏子トリノコ白シロして丸マルド用ヨウト同

又方赤小豆アカマメの粉フウムを端午タガメとて飯ヒヨウの水ミツル湯ヨウ入スルのミスルト同或ハ黃
連イエローリンアラ粉ハラフウムを鶏子トリノコ白シロして丸マルド用ヨウト同

又方赤小豆アカマメの粉フウムを端午タガメとて飯ヒヨウの水ミツル湯ヨウ入スルのミスルト同或ハ黃
連イエローリンアラ粉ハラフウムを鶏子トリノコ白シロして丸マルド用ヨウト同

白シロ薦ヒヤマツ

白シロ薦ヒヤマツヘ向カミき物モノを下シせたり

向カミき雞冠花キガクハと水ミツル酒カクヒと煎シテド用ヨウの本草綱目

白シロ薦ヒヤマツヘ向カミき物モノを下シせたり

向カミき雞冠花キガクハと水ミツル酒カクヒと煎シテド用ヨウの本草綱目

赤アカ白シロ薦ヒヤマツ

赤アカ白シロ薦ヒヤマツヘ向カミき物モノと白シロまもろとはドウドウアラモロ

胡椒ペッパー緜豆マメ一味イミと白シロ病イソダカ人の年イニシのねネを粉フウムを糊ハシマりて糊ハシマり

丸マルド用ヨウの赤アカ薦ヒヤマツヘ生姜湯カクヤクヨウと用ヨウの向カミき薦ヒヤマツと食シテリトトトト陽

トト用ヨウの本草綱目

又方蓮葉リョウイとやき粉フウムカヤテニエド用ヨウの赤アカ薦ヒヤマツヘ蜜湯ミツヨウと

用ヨウの白シロ薦ヒヤマツヘ沙糖湯カタシヨウヨウと用ヨウの同

又方葱ネギの白根シロガタとさざみの本ハラハラをささみシテて薦ヒヤマツと食シテリハ日食ヒツヨウと同

又方艾葉イハを膚ハラハラと煮シテの同一ヒツ威カミヘ生姜カクヤクと同也ハシマ

又方艾葉イハを膚ハラハラと用ヨウの服ハラハラとみミはハラハラみミむミトト同 健生易筋ケンジンイシス

又方木根モクルを水ミツルと濃ミズ蜜ミツドト同

又方黃連十錢本香一錢吳茱萸五錢砂糖炒粉同用
一二錢水酒同服之飯後服陽氣而用也

神農真傳方

小兒乃赤白痢

黃連水濃煎下蜜入砂糖同用

本草綱目

又方鹿角切碎同砂糖同用

姜少少水煎下同

又方麻仁炒熟研細水煎下同

又方蜂房研末立沙津同嚼下同

又方胡麻三十粒搗湯同蜜同煎下同

婦人懷姪并以姜煎後的赤白痢

生姜汁十錢薑子一箇研碎右加姜汁同煎

以水八分研末同蒲黃三分研末七克同沸水

空腹服之日服一劑病久年久者姜汁同煎

血痢

荆病血下同

楮木皮荆芥各半錢研末一錢同用

本草綱目

又方楮子研末水煎服之同用鮮血

下同用同

又方蓮葉同帶同水煎服同

又方本賊二錢水煎服同

又方白芷紙同研末水煎服同

又方黃連四十錢好酒立吞服同

又方黃連一錢水煎服同水煎服同

又方小豆蔻九粒水煎服同

不一服得効方

黄蘗五分赤芍藥四分粉少一糊少て砂子要末のたゞ小丸ド二十粒
は空腹又飯の後湯少て用ひ。本草綱目

臘血痢

病體血を下もふ
烏梅の肉をやき物

鳥梅の肉をやき粉にてニユズで飯の湯も用ひ
又方石榴ふつ搗けともびりとく多く飲てよし 五色刀湯
を下にすも用てよし 同
又方當帰黃連多う粉す 大蒜 研す也 膏小豆 小豆
乃えんぐれ丸トニナ粒で厚朴の煎湯と用ひ一方ト 阿膠と
くくり用ひ 得効方

卷之三

乳刺ハ蟹脚のちくをづく通じて股の筋の強さ
黄連を粉にすて一又乾姜と粉にすて五分の
空腹よりのまぐり

又方
モア

タニヤ
一
二

又方生姜をさしめぬ茶一碗アハヘシルもモヒヨウタケモ押テ
キルナリ。キレバ
ヨリ若熱病マヘ生姜の皮モヒヨウタケモ用ヒ冷痢マヘ皮モヒヨウタケモ
モモ用ヒ同。

又方早英子を来猿よかさまを炒て枳壳炒て多か粉
少々飯ア糊アてゆづれ豆のまふ丸アて古ナ粒飯のう
湯アて用。本草綱目

久
爾

正病久不愈

烏梅十肉（シモツ）水天圓（スカイエン）ニ盛（スル）一盃（イチボウ）重（ヒメシ）ド洗先
空腹（クンボク）用（ヨウ）てよし（ヨシ）まくへ烏梅（ウメ）とやさか粉（フウ）一 醋糊（ソウフ）モモ丸（モモマル）ド

二三十粒で空腹より湯を用ひ本草綱目

又方艾葉陳皮水煎て用ひ同

又方石榴一つ火にくぶやき煙をく石生一茶匙とさはして
一夜かて研末小別み石榴を水に煎じてすりけりて右乃

粉並み公用也同

又方五倍子醋をひいて炒て七度粉みて飯のとも湯

うそ用の同

又方薑一つ今半に用ひタキヒアラハ姜とキノヘ燒みて

考砂糖一塊入よく煮くと水煎て用治法彙

又方厚朴一尺黃連一尺水天國ニ盆入煎つら空腹より用

ゆ久病にて食物こりをあとどりふすれり本草綱目

又方様り子槐花十丈ば黄耆よすり炒白朮ニ立分

回ト粉ゆてニよづ温らし酒を多く飲

痢病と乍り年月久経て止ざん用ひと續易簡方

赤白痢久しく止ざる

地榆を水煎て水煎のをく一布片を潔と洗つ去室

胎を飲く同

又方黃連四十九梅干七つ土器より黒燒みてニよづ飯

入り湯の内へ挂けていれかきまぜ用ひ同

又方よく熟してこれ括樓と一ツやき粉を一茶匙温ら

酒にて用ひ乍ら痢病立毛の物と下さん用ひと同

老人脾胃虛して痢病久しくやまざる

山椒十九枚樹て粉を白麪四十枚ニ味よくかます得効方

又方神曲二十枚各う嚢粉を青梁茶四合用ひ者て
含むべ同

又方黍米四合阿膠二两炒て溶め先黍米づるみを
入煮熟しより阿膠を入ひきさむ空腹に人をとど同

休息病

休息病ハ大根とそりと薑粉服して一病病いの根も
そくぐく毒氣のそくびわらひハ止病ア後保養云あく止、又ハ
まくそくれりてハまくやみ愈ざるなり

前尾草根を搗粉めて一々湯を用ひ

本草綱目

又方雞子一ツサザグのを去すバ黃蠟を指頭のよど殺を
一塊鍋のうちくかく右ア雞子殻ひきを炒熟し
空腹より食とど小兒の疳病ふも用てよ。急救易方

又方乾姜二つモヤシ粉一細茶多少粉ふ一烏梅肉を
一ナセ大豆れ太豆丸ドニ十粒で空腹み飯のうち湯を

用ひ得効方

噤口病

噤口病ハ食物を一切含むとくうべて病ア勢むちげ

きたり

乾山茱萸粉を炒て粉ゆニ又ズ飯を

本草綱目

湯にて用くよ。又方蕎麥麪ニ又砂糖水を用ひ同

又方蘿蔔をへぎ蜜より酒を汁を嚥べ味ちに

よひて再びくとのど一回

又方蓮肉皮を去れて粉ふ一玉で空腹ノ未飲用

用ひ效急易方

又方田螺を搗てすらー肺のやれづらをひく熱毒の氣を

引ひ下せ 治法量

又方大蒜を搗てすらー臭氣アスハ肺ノ中を

竹葉子 千金方

小兒疳癆

小兒疳症是て痢病をうなづく

益母草れ茶とまと同様粥を煮て毎日食せしむ

ヨリ糞み薑汁をのべ本草綱目

又方蟾蜍を燒粉みて一粒で含み自鳴津にて飲下

させてよ同

又方蝦蟇一匹やき灰から免屎を炒て五分同様粉小

一蓮子れ大ささを細絞りはしに肛門より入れてよ同

毛くじてよ同

又方薤白を杵をもぐらで梗米の粉并み蜜をいれ砂

餅小こゑを熟して食すよ續易簡方

又方赤石脂川芎等を粉みて五分つ飯のとり湯を

用ひ衛生易簡方

痢後雜症

痢病やそぞ後不食をよ

衛生易簡方

赤小豆水み煮令空してよ同

痢病日ねつて四肢浮腫口ひづれ

冬瓜の黄土とけミ土アリあつさ五寸煎少しおのを

炮み一熱一煎あく土を去冬瓜の汁をあらわすとくの

てよ同

痢病の後風めあくすひとくびく痛を伸屈自由な

ごくみ

鼈甲燻アヒト多く黄少く都李仁枳壳独活等を

粉少く本気アヒト煎じけと用ひ酒と用ひよ得効方

又方川烏頭赤芍藥蒼朮酒アヒト土朱等を粉に

柳タチバナにて行ハシマリ立タケルアリ太オトコ小コトコ丸マツコト本風ハラガタの葉ハラガタト叶ハラガタ付ハラガタて用ヨウひ

てト同ドウ

普救類方卷之三下



